

開花前の剪定枝で梨花粉を確保 梨の花粉採取始める



J A あいち豊田は、中国の火傷病（かしょうびょう）発生にともなう中国産梨花粉の輸入停止を受け、産地内で梨の花粉を採取する取り組みを始めます。

梨は同一品種や自分の花粉で結実しない「自家不和合性」という性質を持つものがほとんどで、確実に果実を実らせるには栽培する品種と親和性のある品種の花粉を人工授粉する必要があります。この地域でも、一部で中国産梨花粉を利用しているため、梨農家・J A ・関係団体で協力し、交配用花粉を安定的に確保できる環境を整え、地域の特産品である梨と産地を守り、農家所得の向上を目指します。

2023年7月中旬、中国で火傷病の発生が確認され、8月末日本への花粉輸入は停止しました。火傷病とは、細菌（火傷病菌）により梨などバラ科植物の枝や葉が枯れ、木が枯死する恐ろしい病気のことです。有効な防除方法が確立されていないため、感染すれば伐採が必要となります。日本ではまだ発生していませんが、韓国などの近隣国を含め世界57カ国で発生しています。

花粉の採取方法は、花芽が着生している梨の木の枝を剪定して、ハウス内で温めて開花した花から花粉を採取します。今年は離農した梨農家の梨園の剪定枝や、愛知県立猿投農林高等学校で育てる梨の木から花粉を採取するなどの対応をしています。

梨は品種によって授粉作業が必要で、9月以降に出荷する品種「新高」やジャンボ梨で人気のある「愛宕」、主力品種で着果率の低い「幸水」、開花の早い「あけみず」などが該当します。

同J A では、次年度以降の梨花粉を確保するため、J A 施設のほ場で花粉を採取する梨の木を試験的に植えるなどの対策を始めています。これからも、梨の産地を守る取り組みを進めていきます。



開花前の梨の枝を剪定する作業が見られます

【取材日時】

日時：令和6年4月1日（月）9：15～

場所：みよし市助生町後田92付近の梨畑

参加者：J A あいち豊田 営農職員

取材ご希望の方は事前にご連絡ください。

＜J A あいち豊田 梨の栽培概要＞

栽培農家は豊田市、みよし市で54戸。栽培面積は33.8ヘクタール。出荷量は、全品種で490トンの出荷予定。栽培品種は主力品種「幸水」「あきづき」など豊田市で8品種、みよし市で4品種を栽培しています。

＜お問い合わせ先＞

J A あいち豊田 営農生活部 営農相談課 担当：宇野（土日祝を除く8:30～17:30）
〒470-8511 豊田市西町4丁目5番地 電話(0565)31-2460 FAX(0565)31-2460
または、広報課 電話(0565)31-2361 E-mail k.koho@toyota.aichi-ja.or.jp

